

## 第65期

 **Kyoritsu** ビジネスレポート

2022年7月1日→2023年6月30日



## トップメッセージ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは「ファクトリー・オートメーション (FA) 技術とIoTの融合分野であるインテリジェントFAシステム」を中心に、開発型ビジネスを通じ、豊かな未来社会への貢献を目指しています。いわゆるステーク・ホルダーと言われる株主様・顧客様を始めとするお取引先様、社員及びその家族、そして関連する全ての会社や人々と将来の夢を共有し、主として製造業における製造現場、試験、研究開発部門を対象にインテリジェントFAシステムにより開発・生産の省力化・能力向上・コストダウンの実現等トータルシステムの効率化に貢献して参りました。

株主の皆様におかれましても、今後共、何卒倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長  
西 信之

## 当期の概況について

新型コロナウイルス感染症による影響も徐々に緩和され経済活動正常化への動きが活発であったものの、原材料や資源価格の高騰等の影響も大きく、また世界的な金融引き締めにより景気後退が懸念されるなど、景気の先行きは依然として不透明感が拭えないまま推移いたしました。

当社グループとしましては、経営基本方針としている「One Stop Shopping」施策を引き続き推し進め、受注範囲の拡大及び収益性の向上を目指し、新たなビジネスモデルの構築に尽力して参りました。人手不足が益々深刻化する環境下での省人・省力化へのロボットに対する需要拡大、さらにはロボットの作業範囲を広げるAIの進展等、当社グループには引き続き強い追い風が吹いております。当連結会計年度においては引き続き景況感の回復に伴い製造業における設備投資意欲は依然として旺盛であり、この3年間に抑えていた設備投資の再開に加えて、半導体不足の解消も段階的に見られ、さらに海外への渡航制限も緩和される中で、依然として需要超過の状況が続いております。

新規の設備投資・研究開発投資が一時的な波はあるにせよ、多くの産業では生産回復の基調が強く、引き続き当社の予想を上回る速度で拡大しており、設備・研究開発投資依存型のビジネスモデルの当社グループ業績も多少の時差はあるものの、順調に拡大傾向であると認識できるほどに回復して参りました。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は336億16百万円(前期比18.7%の増)となり、損益面としましては営業利益が22億73百万円(同50.5%の増)、経常利益が23億71百万円(同47.9%の増)、親会社株主に帰属する当期純利益が15億30百万円(同43.9%の増)と増収・増益になりました。

## 次期の見通し

次期の連結業績の見通しにつきましては、売上高は前期比4.1%増の350億円を予想しており、営業利益は同1.2%増の23億円、経常利益は同1.2%増の24億円、親会社株主に帰属する当期純利益は同4.6%増の16億円を予想しております。

## 連結業績ハイライト

売上高

33,616百万円

前期比 18.7%増 ↗

経常利益

2,371百万円

前期比 47.9%増 ↗

親会社株主に帰属する当期純利益

1,530百万円

前期比 43.9%増 ↗

# 【FA業界における「One Stop Shopping」の実現へ 「New Producer」としての付加価値創造企業へ】

## Product① FAシステム・ロボットシステム

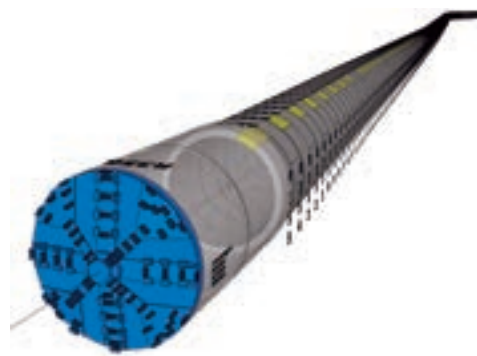


生産工程の入口から出口まで最適生産管理システムを目指す工場のトータル管理システム（Factory Automation System）工場の製造ライン、生産設備や研究所などでロボットシステムの導入や自動制御装置の開発・設計に欠かせない各種シミュレーションソフトウェア、PLC、制御部品、画像検査システム、安全センサー等を最適ソリューションとともに提供。

## Product② 3次元可視化掘進管理システム（もぐう3D Eye）

従来の当社販売の土木シールド推進工法掘進管理システム内にストックされる施工時データをもとに、パソコン上での3次元図化機能を追加し、より高度な施工情報の見える化を実現。

これまで現在位置や進行方向のズレなどを平面のグラフと数字だけで表示していたが、より見やすく直感的に状況を把握出来るシステムを開発。



## Product③ ユニレリーフ

### ユニレリーフ（UNI RELIEF）

魚をセンサとした水質連続監視装置（魚が危険を感知）



### ユニレリーフ2槽式

警報の信頼性向上と省スペース、省コストを実現



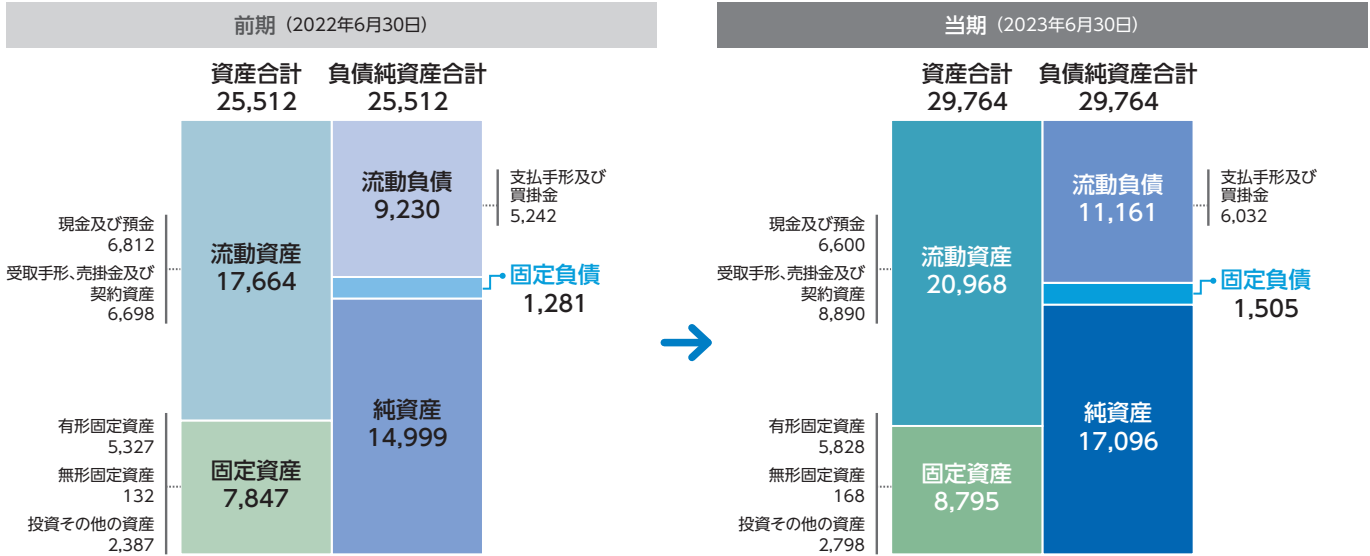
### EQウォーター

用水・排水（放流水）の連続監視に最適。オプション:カメラで遠隔監視可能、PC接続で長期データトレンド&異常時メール送信

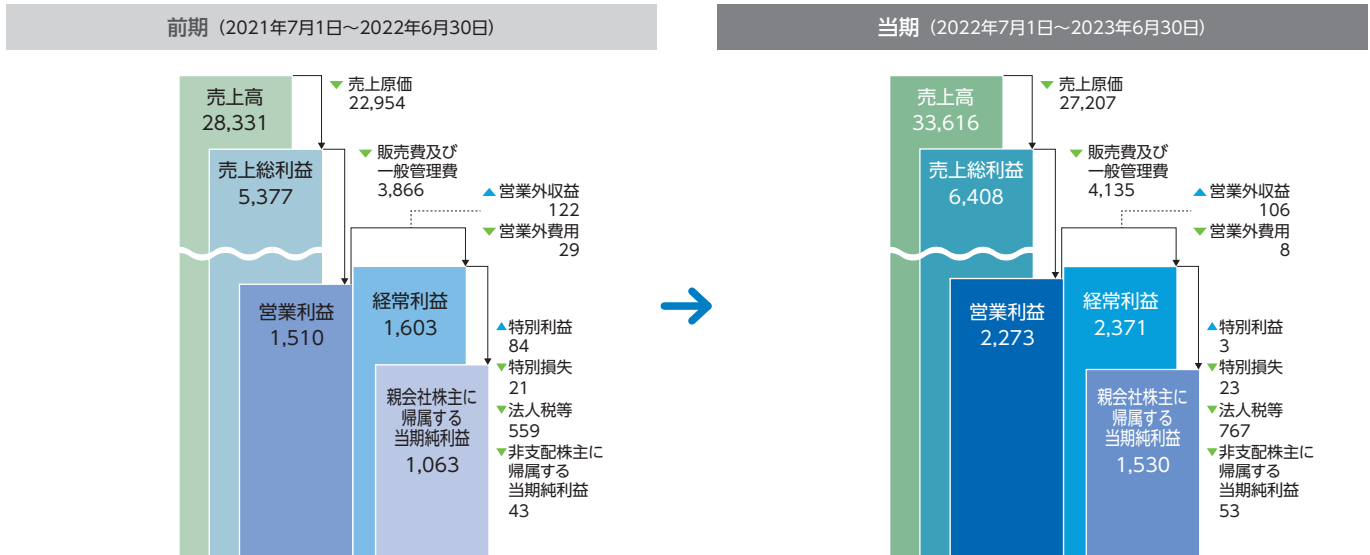


# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表 (単位：百万円)



## 連結損益計算書 (単位：百万円)



## 連結包括利益計算書 (単位：百万円)

科目	前期 2021年7月 1日～ 2022年6月30日	当期 2022年7月 1日～ 2023年6月30日
当期純利益	1,106	1,583
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6	160
為替換算調整勘定	—	70
退職給付に係る調整額	2	8
その他の包括利益合計	△4	238
包括利益	1,102	1,822
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,078	1,752
非支配株主に係る包括利益	24	70

### Point ①

当連結会計年度末の資産の合計額は、前連結会計年度末に比べ42億522百万円増加し、297億64百万円となりました。これは主として流動資産の受取手形、売掛金及び契約資産と電子記録債権を合わせた売上債権のほか、商品及び製品と仕掛品と原材料を合わせた棚卸資産と固定資産の建物及び構築物並びに投資有価証券が増加したこと等によるものです。

負債の合計額は、前連結会計年度末に比べ21億55百万円増加し、126億67百万円となりました。これは主として支払手形及び買掛金と電子記録債務を合わせた仕入債務と未払法人税等と流動負債のその他が増加したこと等によるものです。

純資産の合計額は、前連結会計年度末に比べ20億97百万円増加し、170億96百万円となりました。これは主として利益剰余金とその他有価証券評価差額金と非支配株主持分が増加したこと等によるものです。

### Point ②

#### 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは主としてITとFAの融合領域ともいうべきインテリジェントFAシステムビジネスを事業の中核としており、製造現場、研究開発部門、品質管理部門等で必要とする機器を開発、さらにシステム化し、製造業を主とした顧客に対して高次元における最適ソリューションプロバイダーになることを目指してあります。

当社グループは、提供する製品・サービスの特性に基づき、事業セグメントを集約した上で、「インテリジェントFAシステム事業」、「IT制御・科学測定事業」の2つを報告セグメントとしております。

即ち、主として製造業の研究開発や生産現場で必要な各種機器を開発し或いはネットワーク化しITシステムにより自動制御する技術を中核として開発された製品・システム等に関連するビジネス分野を「インテリジェントFAシステム事業」としてあり、その関連製品である計測器、科学センサー、科学分析等を行う各種機器類に関連するビジネス分野を「IT制御・科学測定事業」としてあります。

## 会社概要

社名 協立電機株式会社  
設立 1959年2月  
資本金 14億4,144万円  
本社所在地 静岡県静岡市駿河区中田本町61番1号  
社員数 742名(連結) 391名(単体)

## 株式の状況

発行可能株式総数 10,000,000株  
発行済株式の総数 4,369,200株  
1単元の株式の数 100株  
株主数 1,587名

## 役員

代表取締役社長	西	信	之
常務取締役	瀬	本	保
常務取締役	大	石	勝
取締役	藤	嶋	善
取締役	小	島	基
取締役	新	井	由
取締役	平	井	伸
取締役(社外)	鈴	木	雅
取締役(社外)	望	月	誠
常勤監査役	高	橋	朗
常勤監査役(社外)	木	村	精
監査役(社外)	伊	藤	喜
監査役	西	光	世

## 株主メモ

事業年度 毎年7月1日から翌年6月30日まで  
期末配当金受領株主確定日 6月30日  
中間配当金受領株主確定日 12月31日  
定時株主総会 毎年9月  
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関  
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社  
証券代行部  
東京都府中市日鋼町1-1  
電話 0120-232-711(通話料無料)  
郵送先 〒137-8081  
新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
証券代行部  
上場証券取引所 東京証券取引所  
公告の方法 電子公告により行う。公告掲載URL  
<https://www.kdwan.co.jp/>  
(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。)

## 営業拠点

本社 〒422-8686 静岡県静岡市駿河区中田本町61-1  
TEL<054>288-8888 FAX<054>285-1105  
R&Dセンター 〒422-8686 静岡県静岡市駿河区中田本町61-2  
TEL<054>288-8890 FAX<054>285-1106  
テクニカルセンター 〒422-8686 静岡県静岡市駿河区中田本町63-25  
TEL<054>288-8855 FAX<054>285-1105  
東京支社 〒112-0012 東京都文京区大塚3-11-6 5F  
TEL<03>5976-5500 FAX<03>5976-5522  
富士支店 〒417-0047 静岡県富士市青島町270番地  
TEL<0545>55-5500 FAX<0545>55-5515  
浜松支店 〒435-0007 静岡県浜松市東区流通元町13-7  
TEL<053>421-3500 FAX<053>421-3320  
関西支店 〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-4-27-501  
TEL<06>4861-1501 FAX<06>4861-1502

- ・仙台営業所・宇都宮営業所・つくば営業所
- ・神奈川中央営業所・御殿場営業所・沼津営業所
- ・静岡営業所・島田営業所・袋井事業所
- ・豊橋営業所・三河営業所・名古屋営業所
- ・高岡事業所・神戸営業所・福岡営業所
- ・熊本営業所・鹿児島営業所
- ・本社工場
- ・富士サービスセンター・富士サポートセンター
- ・相模原事業所
- ・名古屋テクニカルセンター

## WEBサイトのご案内

詳しいIR情報は当社ホームページにて掲載しています。



協立電機

検索

<https://www.kdwan.co.jp/>

